

台湾の民主化過程振り返り

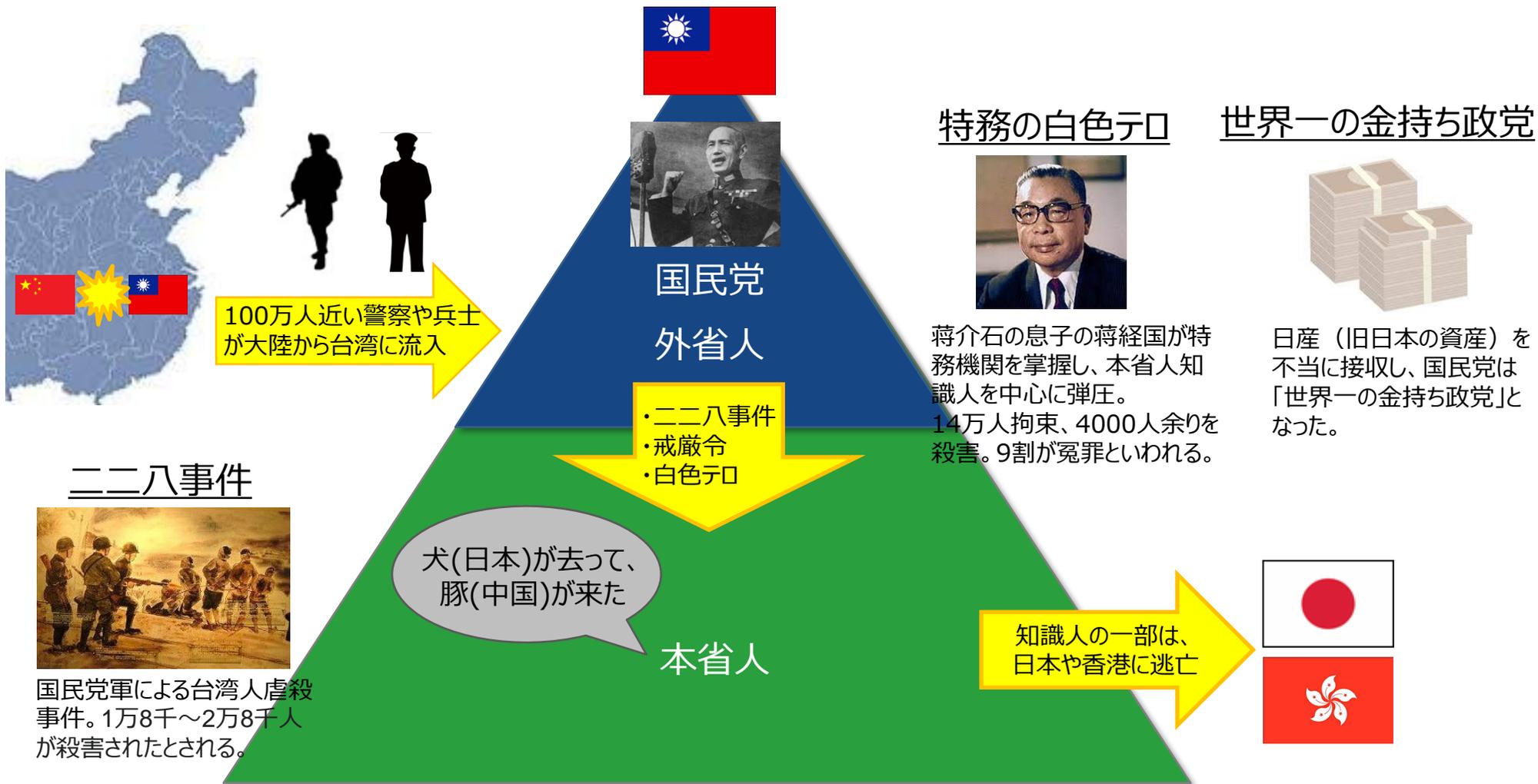
-台湾の民主化過程の整理、半導体産業や地政学的観点からの台湾の位置づけ-

Update: Aug 2021

台湾の民主化過程

台湾の民主化過程 1945-1950年代。軍事独裁確立期

国共内戦に敗れ台湾に逃げ込んだ国民党が、「大陸反攻」を掲げる蒋介石の軍事独裁体制を敷いた。



台湾の民主化過程 1960-70年代。民主化の発芽期

蒋介石が死に蔣経国体制に移行。党外人士による参政活動。軍の世代交代により本省人が軍を構成。

中壢事件



同じ台湾人を撃つのか！？



- ・統一地方選挙で国民党が不正
- 民衆の抗議デモ
- 軍が出動するも本省人兵は撤退
- 以後、軍の投入が事実上不可能に

美麗島事件



- ・将来の民進党中核メンバーが民主化デモで収監される。
- ・トップ弁護士、陳水扁が弁護



国民党
外省人

蔣経国が李登輝ら本省人テクノクラートを多数抜擢



兵士、警官、テクノクラート

- ・国是声明、人権宣言
- ・中壢事件
- ・美麗島事件

党外政治家、基督長老教会

本省人

長老教会は民主化要求声明を發表、民主化運動人士を匿った。



「大陸反攻は諦め、台湾の民主化を」

台湾関係法により、断交後も安全保障

日米への台湾人留学生の増大



ケネディ大統領



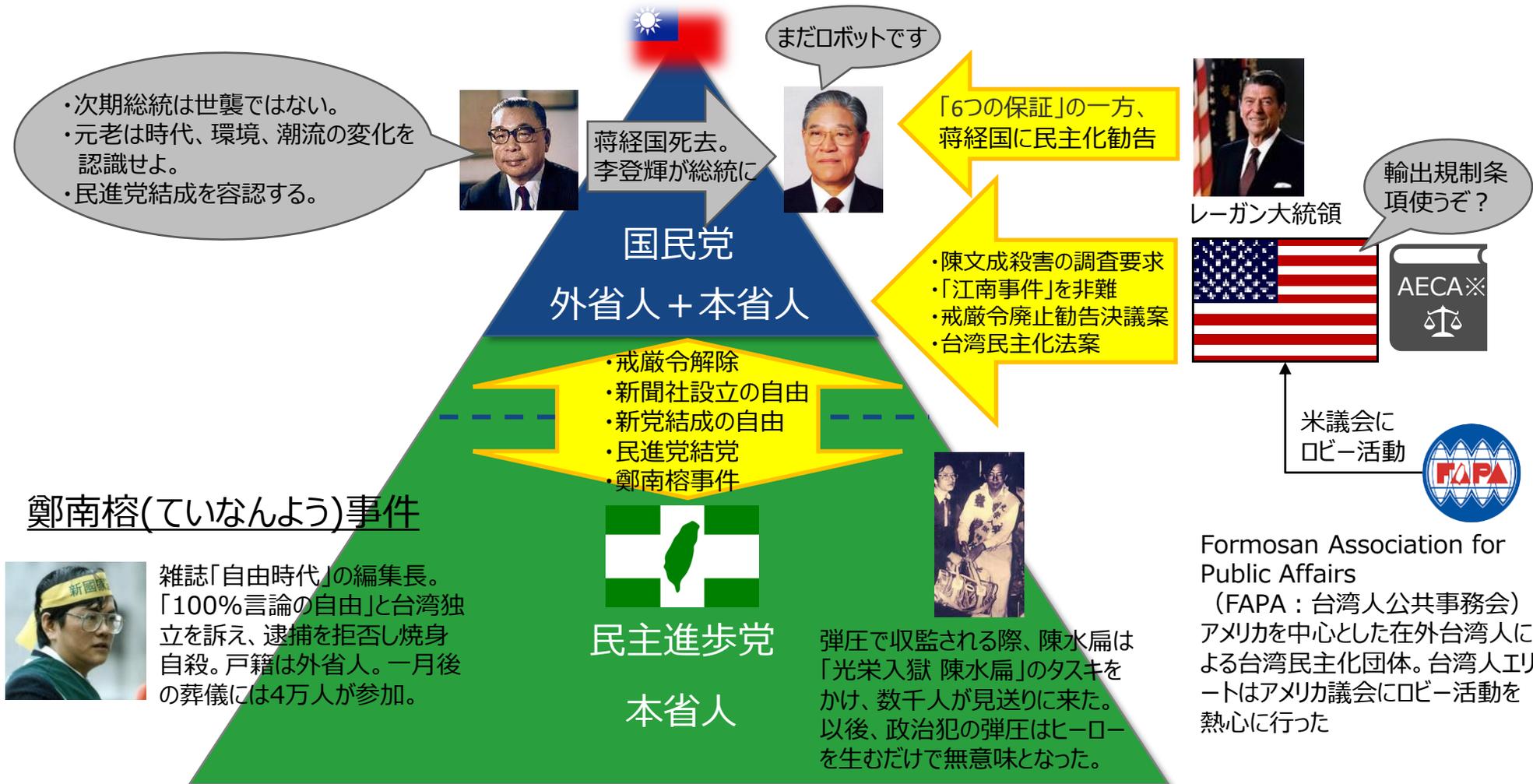
台湾人学生らの間で独立思想共有



在日台湾人による独立、民主化を訴える雑誌『台湾青年』が発刊。

台湾の民主化過程 1980年代 本土化と自由化の時代

戒厳令解除、新聞社設立の自由化、新党結成の自由化。民進党の結成など自由化が着実に進展。



※Arms Export Control Act (武器輸出管理法)

台湾の民主化過程 1990年代 民主化の時代

国民党内の政治闘争に李登輝が勝利し権力掌握、民主化が本格化。本省人VS外省人時代の終わり

中華民國の形骸化が限界まで進む

国是會議



李登輝が民進党と協力して招集した非正規の国民会議。国民党、民進党、財界、学会等、広範な130余名が参加、国家の基本方針を固めた。



李登輝
主流派

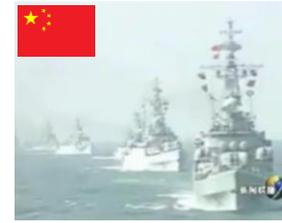


郝柏村
非主流派

国民党

- ・万年国会解散
- ・立法院総選挙
- ・総統直接選挙
- ・懲治反乱条例廃止(政治犯規定廃止)
- ・国共内戦の終結

総統選と安全保障



中国は李登輝当選を警戒し、96年の総統選を台湾海峡の軍事演習で脅迫。アメリカが空母2隻を派遣し抑止。総統選は李登輝の圧勝。

李登輝は学生の要求を受入れ。

野百合学生運動



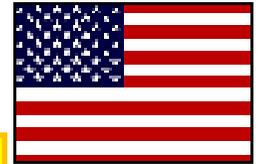
学生約6,000名が、中正紀念堂広場に座り込み。国民大会解散、臨時条款廃止、国是會議開催、政治経済改革時間表提出を要求。



民主進歩党

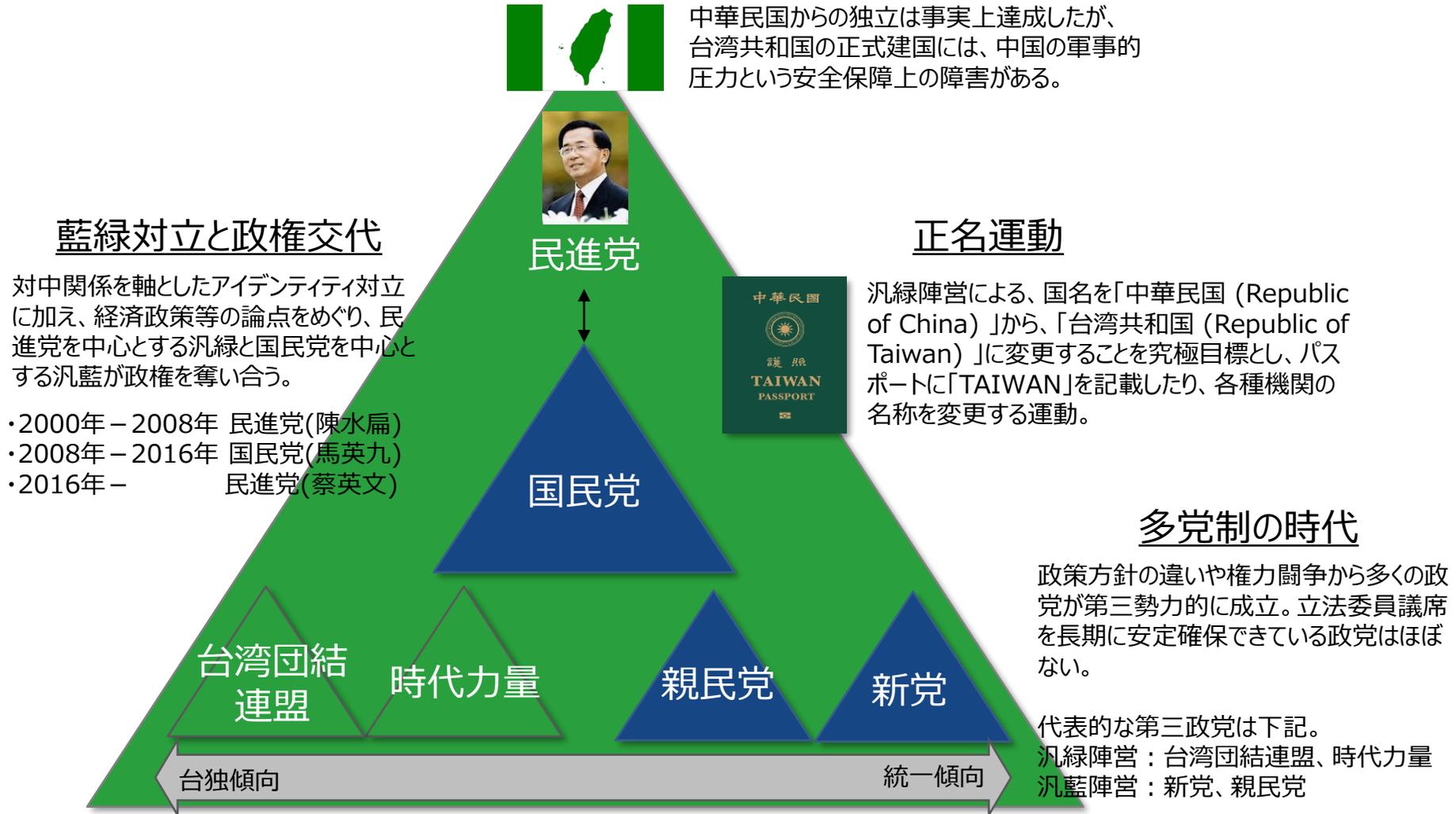
李登輝の特赦により、収監中の主要メンバーが復帰。

政治犯ブラックリストが廃止され、国外亡命のエリートが多数帰国



台湾の民主化過程 2000年代 政権交代の時代

陳水扁総統が直接選挙で誕生し平和裏に政権交代。以後、国民党との間で政権が複数回移動。



Appendix 台湾の民主化年表(1/4)

発生日		事件	概要
1945	8/15	日本降伏	
1947	2/28	二・二八事件	国民党軍による台湾人の虐殺。
	3/9	戒嚴令布告	戒嚴令が布告され、特務による弾圧が始まる。
1949	6/21	白色テロの本格化	「懲治反乱条例」「肅清匪諜条例」が布告。以後、白色テロが拡大
	8/5	『中国白書』発表	アメリカ国務省が蒋介石政権に見切りをつける内容を発表
	8月	政治行動委員会発足	蔣経国の秘密保安組織「政治行動委員会」発足。「国家安全局」の前身
1950	6/25	朝鮮戦争勃発	共産主義勢力の危険性が顕在化、国民党にとっては起死回生の幸運
1960	4/10	『台湾青年』発刊	海外台湾独立運動、民主化運動の精神的支柱となる雑誌が日本で発行
1970	1/15	台湾独立連盟結成	『台湾青年』を通じた日本、米国、カナダ、欧州に住む台湾人の連合体。本部は米国に設置
1971	10/25	国連脱退	中国が国連に加盟。台湾は日米が引き留めるも国連脱退
	12/17	国是声明	長老教会が「国是声明」発表、台湾の民主化を求める
1972	6/1	蔣経国が行政院長	蔣経国が行政院長に就任し、李登輝ら本省人テクノクラートを抜擢
1973	7/1	十大建設開始	台湾で十大建設開始。経済成長の黄金時代へ

Appendix 台湾の民主化年表(2/4)

発生日		事件	概要
1975	4/5	蒋介石死去	蒋介石死去
1977	8/16	人権宣言	長老教会「人権宣言」発表、台湾を独立国として扱うよう世界に呼びかけ
	11/19	中樞事件	台湾初の統一地方選挙の不正に民衆がデモ。軍出動も「同じ台湾人を撃てるのか」の言葉に沈黙、撤退。以後、弾圧に軍は投入されず。
1978	3/21	蔣経国が総統に就任	名実ともに蔣経国の時代へ
1979	4/10	台湾関係法成立	米台断交の影響を抑えるため、アメリカで台湾関係法成立
	8/24	『美麗島』発刊	台湾で反体制雑誌『美麗島』発刊、大ベストセラーに
	12/10	美麗島事件	民進党主力メンバーの大規模デモ。参加メンバーは投獄。陳水扁が弁護
1981	7/3	陳文成殺害事件	カーネギー・メロン大学教授・陳文成が台湾で殺害される
	12月		李登輝、台湾省主席に就任
1982	2/14	F A P A 結成	台湾人公共事務会（F A P A）がアメリカで結成。ロビー活動を強化
1984	10/15	江南事件	『蔣経国伝』の著者が、サンフランシスコで国民党の特務により暗殺
1986	6月	陳水扁入獄	陳水扁ら、政治雑誌の記事が名誉毀損で入獄。「光荣入獄」で英雄化

Appendix 台湾の民主化年表(3/4)

発生日		事件	概要
1986	9/28	民進党結党	台湾で民主進歩党（民進党）結党。違法だが蔣経国が目こぼし
	12/6	国民大会代表選挙	台湾立法院、国民大会代表選挙 民進党が議席を3倍増
1987	7/15	戒厳令解除	台湾で38年間続いた戒厳令解除。外国為替管理も自由化
1988	1/1	報禁が解除	台湾で報禁が解除される。報道の自由が緩和される
	1/13	李登輝総統就任	蔣経国が死去。李登輝がはじめての台湾人総統となる。通称ロボット総統
1989	1/26	党禁が解除	台湾で党禁解除、政党結成の自由化
	4/7	鄭南榕事件	台湾独立運動家・鄭南榕（外省人）が国府に抗議して焼身自殺
	6/4	天安門事件	中国で（第二次）天安門事件。軍による武力弾圧と大規模な市街戦
	12/2	統一選挙	台湾で戒厳令解除後の初の統一選挙。民進党が躍進
1990	6/21	万年国会解散決定	第一期中央民意代表（万年国会）は、91年末までに全員退職が決定
	6/28	国是会議開催	以後の民主化ロードマップが広範な代表者によって合意される
1991	5/1	「動員叛乱時期」終結	李登輝、「動員叛乱時期」終結を宣言。国共内戦の終結
	5/17	懲治反乱条例廃止	台湾で懲治反乱条例廃止（政治犯規定の消滅）

Appendix 台湾の民主化年表(4/4)

発生日		事件	概要
1991	8/25	台独綱領	民進党、「台湾共和国」を規定する憲法草案採択
1992	5月	内乱罪規定の改正	中華民国刑法第100条内乱罪が改正。独立等の主張が合法となる
	12/19	立法院選挙	台湾で立法院選挙、民進党が議席を3倍増
1993	4月	政治犯の消滅	台湾で国内政治犯が0に
1994	7/29	憲法改正	台湾で国民大会、総統直接選を認め憲法改正
1996	3/23	台湾初の総統選挙	台湾初の総統直接選挙で李登輝・連戦コンビが圧勝。ほぼ民主化達成
1997	7/18	憲法改正	台湾で国民大会、形骸化が進む台湾省廃止の憲法改正
1999	7/9	二国論発言	李登輝総統、ドイツのマスコミとのインタビューで、いわゆる「二国論」発言
2000	3/18	総統選、政権交代	陳水扁が台湾総統選に勝利。政権交代により民主化の完全達成

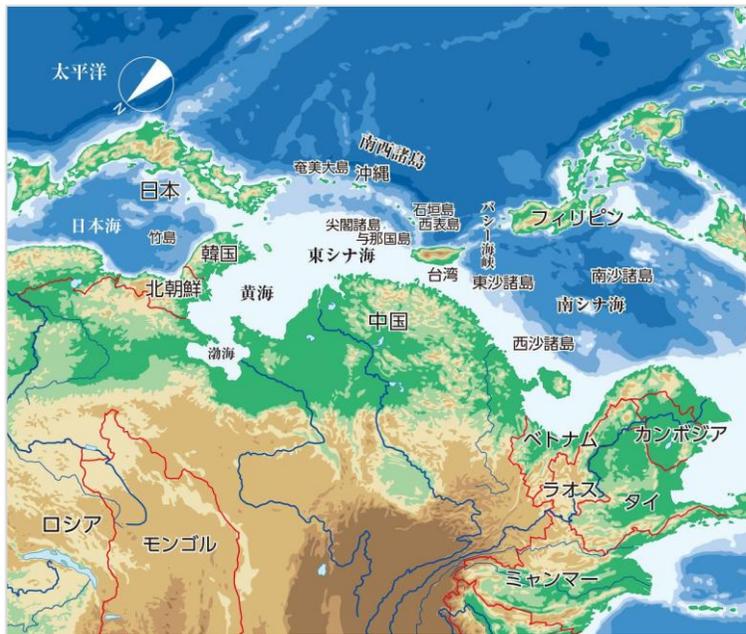
ディスカッション①

台湾の民主化過程を振り返って、印象に残った学びや出来事について感想を述べてください。

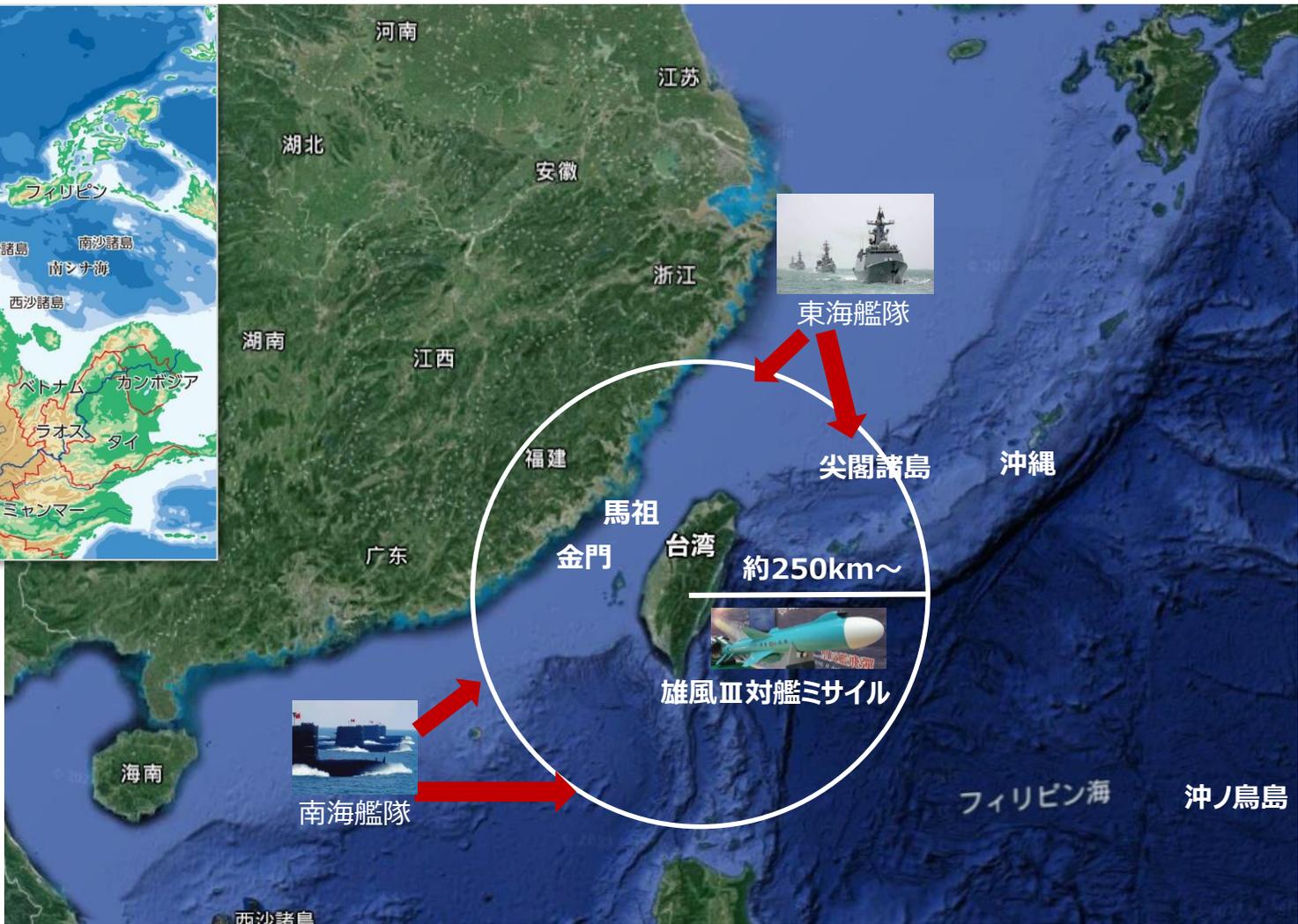
現代の台湾の価値

台湾の価値 - 中国の太平洋進出を阻む地政学的位置 -

太平洋進出を狙う中国は、台湾の対艦ミサイル射程内を通過することを強られる位置関係にある。

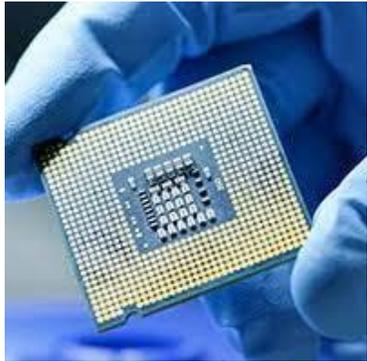


地図の方位を変えると、日本-台湾-フィリピンの第一列島線が中国にとって非常に目障りであることが分かりやすい。



現代の台湾の価値 – 半導体生産のトッププレイヤー –

戦略物資である半導体生産能力の約80%がアジアに集中、アメリカは安全保障上の懸念を強めている。



半導体なくして産業は成り立たず、半導体は現代の戦略物資といえる。



スマホ



PC



サーバ



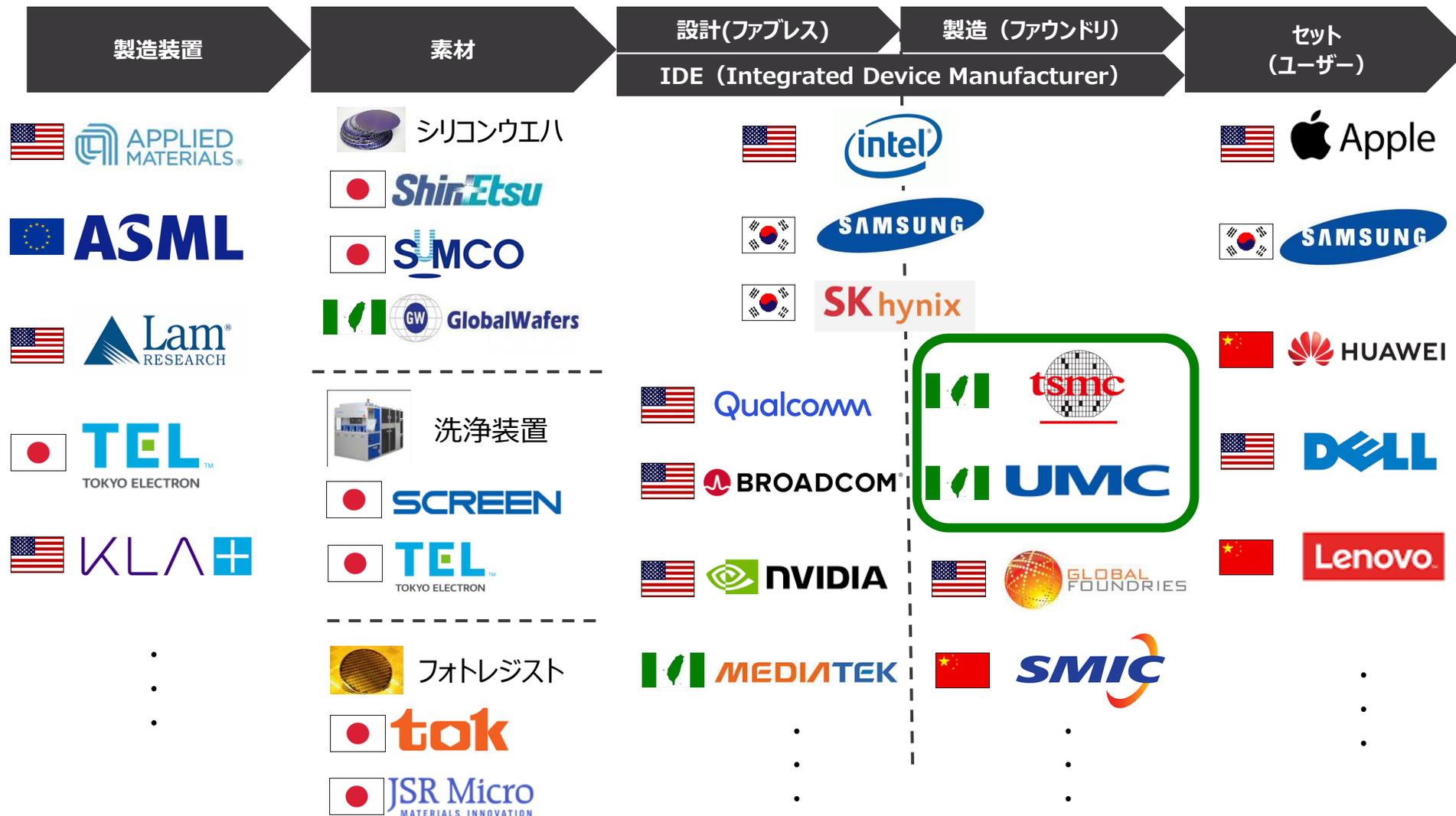
自動車



特に台湾のTSMCの技術なくして最先端5nmチップは生産できず、他社（IBM）がキャッチアップするには、年間300億ドルを少なくとも5年は投資する必要があるともいわれる。

現代の台湾の価値 – 半導体サプライチェーンの中核 –

日米台韓にサプライチェーンが集中。**台湾**のファウンドリなくして半導体の安定生産は不可能な状況。



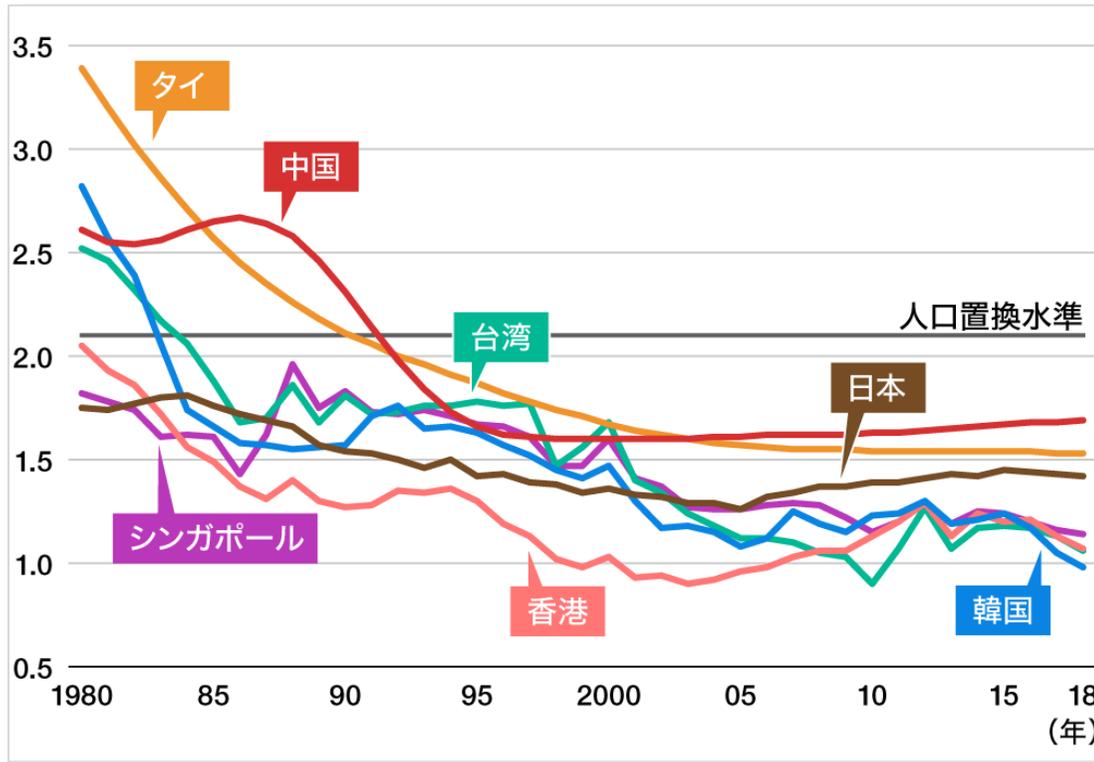
2020年、2021年第一四半期の売上ランキングより作成

台湾内部の論点や文化

少子化やLGBTなどの家族計画、原発論争

リベラルな家族計画 – 少子化、LGBT –

LGBT運動が盛んであり、毎年台北市でパレードが開催。晩婚化と少子化対策も限界を迎えている。



住宅価格の高騰、若年層の経済不安、社会的な結婚圧力の低さから**出生率は世界最低レベル**。
→すでに人口減少始まる。



アジア初の同性婚合法化を2019年に達成したが反対も根強い。

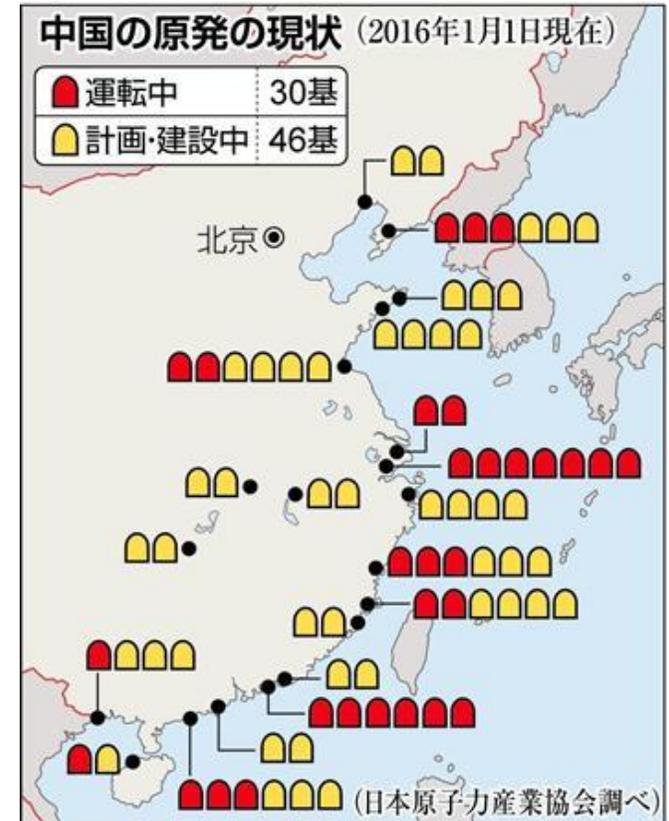
台湾の原発論争

第四原発建設論争は10年も続いており、建設の目途は立たない。エコ意識は高いが、2017年8月に全国主要都市で600万世帯の大停電が起きるなど、現実的な発電政策が打ち出せていない。



台湾の原発分布と反原発デモ:

- ・高いエコ意識と感情的な論争が特徴
- ・2018年の国民投票で石炭発電の削減が決定



参考：台湾の対岸にある中国の原発分布

台湾国内(日本も)だけで原発リ
スクを語る意味があるか？

ディスカッション②

注目 이슈のいずれかについて、気づいた点などの感想を述べてください。

本日の注目 이슈：

- 地政学的位置
- 半導体産業の位置づけ
- 家族計画、LGBT
- 原発

CONFIDENTIAL

本文書（添付資料を含む）は、合同会社アシュアプラスが著作権その他の権利を有する営業秘密（含サプライヤー等第三者が権利を有するもの）です。当社の許可なく複製し利用すること、また漏洩することは「著作権法」「不正競争防止法」によって禁じられております。
本資料内の社名・製品名は各社の登録商標です。